

観光社会資本の事例

テーマ	臨海副都心の“走る展望台” 新交通ゆりかもめ
【施設の状況写真】    <p data-bbox="220 864 831 958">ゴムタイヤで軌道上を走る新交通システム。自動制御による無人運転で走行しています。</p> <p data-bbox="979 824 1433 954">臨海副都心の中を走るゆりかもめ。高架軌道を走っているため、素晴らしい眺望が得られます。</p>	
【施設の利用写真】   <p data-bbox="301 1570 1302 1621">広い窓と開放的な車内。運転席部分も座席となっており景色が楽しめます。</p>	
【観光資源としての利用状況】 <p data-bbox="150 1715 1447 1800">お台場、レインボーブリッジなど、多くの観光スポットが存在する臨海副都心を走る交通アクセスとして親しまれ、同地域の風景の一部として定着しました。</p> <p data-bbox="150 1809 1447 1895">見渡しのいい大型ガラスの窓の採用と高架を走るシステムにより、東京湾ウォーターフロントの素晴らしい眺望が眼下に広がる“走る展望台”として多くの方にご乗車いただいています。</p> <p data-bbox="150 1904 1447 1989">また、無人運転ならではの運転席からの眺めも楽しめるなど、車両や新交通システム自体の魅力も大きな楽しみとなっています。</p>	

テーマ	臨海副都心の“走る展望台” 新交通ゆりかもめ
【社会資本の基礎データ】 ○名称 東京臨海新交通臨海線ゆりかもめ ○所在地 東京都港区新橋二丁目から東京都江東区有明二丁目 (新橋駅～有明駅 約 12.1km うち当該事業区間 約 5.3km) ○事業名 モノレール道等整備事業 ○事業主体 東京都 ○事業期間 平成2年 ～ 平成7年	
【社会資本の役割・効果】 ○臨海部を結ぶ主要な交通機関 都心部と臨海副都心並びに竹芝、日の出、芝浦ふ頭の再開発地区を結ぶ足として欠かせない交通機関です。臨海副都心来訪者の約4割が、「ゆりかもめ」を利用しており、乗客数は平成7年の開業以来、10年間で3億人を越えました。 ○沿線開発の誘導 各開発地域の交通利便性や交通環境の改善を通じて、開発促進に大きく寄与しています。平成17年度には、今後開発が進められる豊洲地区に路線が延伸され、同地区の開発・まちづくり推進の役割を担っていきます。	
【位置図】  <p>ゆりかもめ 路線位置</p> <p>凡例 ■■■■■ 東京臨海新交通臨海線(延伸区間) ■■■■■ 東京臨海新交通臨海線(供用区間) ■■■■■ 臨海副都心地域 ■■■■■ 豊洲地域</p>	
【関連ホームページ】 ゆりかもめホームページ http://www.yurikamome.co.jp/	